

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP)

for Promoting International Education

「多様性の認識を軸とした学校と地域づくり」

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は多種の樹木が植えられている学校である。それは、開校の時、地域住民がいろいろな樹木の苗を学校に寄付し植栽したからである。樹木は幹・葉・花・実など、それぞれ特徴があり、環境に適応して生長しようとしている。児童が樹木の種類やそれぞれ樹木の違いを知ることは、生物の多様性を認識することである。生物の多様性を認識し、地球上に生きるそれぞれの生き物の特徴や営みを受け入れることは、これからも地球で他の動植物と共に生きていかなければならない人間として、大切で基本的な姿勢である。

そこで本校では、校内の樹木の多様性を知ることから出発し、様々な多様性について学習活動を展開している。例えば、世界の人々の多様性(国際理解)、健全者と障害者の共生(福祉・人権教育)など、「多様性」を軸にして広い範囲の教育活動を展開している。そこで、これらの教育活動を有機的に関連づけて「持続可能な発展のための教育(E S D)」の実践を進めようとしている。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校ではE S Dへの取り組みの入り口として、校内の樹木の多様性を知る活動を行っている。さらに、草花や野菜の栽培を通して多様性の認識の範囲を広げ、高学年では国際理解や防災教育まで、多様性を軸とした教育活動を展開したいと考えている。そこで、以下に示す3つの活動で、次のような目標を掲げる。

(1) 植物の多様性を知る活動

- ① 校内の樹木約 80 種に樹木名表示器「この木なんの木」を設置する。そして、これを活用して楽しみながら児童が樹木の名前や特徴を覚えられるようにする。
- ② ホームページ上に『芦原小学校の樹木図鑑』を掲載して、授業や家庭学習で樹木の閲覧や検索ができるようにする。
- ③ 農園で野菜や花や米を栽培する。

自然界では様々な植物がそれぞれの方法で環境に適応しながら生きていることを知る。児童が自然に親しみながら植物を育てる体験を通して自然の大切さを学ぶ。

(2) 人々の多様性を知る活動

- ① 様々な職業のゲストティーチャーを教育活動に招く。
- ② 外国人をゲストティーチャーに呼び、いろいろな国の文化を知る。

様々な人々が違った考えや職業をもち、それぞれが幸せを求めて生きていることを知る。

(3) 地域や社会の多様性を知る活動

- ① 自分の住んでいる町の特徴を知り、よりよい故郷になるよう、環境美化や景観づくりの活動を行う。

- ② 地震や台風などの自然災害による被災地の支援をとおして、他の地域の人々や暮らしや考えを知る。

住む場所により生活や文化が違うことに気づき、他人のためにボランティア活動ができる児童を育てる。

(4) 地球規模の環境の変化を踏まえた防災教育

- ① 地震や台風など自然災害の発生メカニズムを知る。
 ② かけがえのない地球の環境保護につながる身近な活動の実践
 ③ 自然災害発生時の対応の仕方についての理解と訓練

本校が津波や洪水に弱い地域に立地していることから、地球規模の環境問題も含め防災教育も展開し、危機に強い人間を育てる。

Execution (プロジェクトの実施)

本校では前述のように、校地にある樹木の種類の多さを生かし、植物の多様性の認識をE S Dへの入り口として学習を始める。次に住んでいる地域、日本の各地、世界の国々へと視野を広げ、最終的に地球規模の視点へと学習の範囲を広げている。

本校がE S Dを進めるにあたり、活用できる学習環境は以下のような点である。

- ・校地に 80 種を超える樹木が植えられており生物の多様性を学ぶことができる。
- ・校地には広い農園があり、学校の近隣には学習用の水田がある。
- ・学校の周辺には田畑が広がり、近くに大きな川が流れている。生物の生態を学ぶのに適した環境である。
- ・地域には、子供たちの学習を手助けするボランティアが多くいて協力的である。例えば、野菜の栽培のサポート、ビオトープの管理ボランティア、草花や樹木の栽培ボランティア、図書館ボランティアなどが、通年活動している。
- ・学校が河岸段丘の下部に位置し、洪水や津波で被害を受ける立地にあり、町の人々には防災教育を積極的に推進しようとする機運がある。
- ・東日本大震災の被災地の石巻市立渡波小学校を支援しており、防災に関する学習がしやすい環境にある。
- ・学校に隣接して鉄道の無人駅があり、ボランティア活動がしやすい環境である。
- ・本校の職員が 2015 年 3 月まで J I C A よりフィリピンに派遣されている。また、豊橋市の国際交流協会より、外国人留学生を派遣していただくことができ、国際交流の活動ができる環境である。

以上のような教育環境を生かし、全校で、また各学年で次のような教育活動を展開している。

(1) 活動を進めるためのE S Dカレンダー

※テーマ 学年(教科 指導時間数)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
樹木に親しむ	樹木クイズ『この木なんの木』(全校)											
野菜づくり	いもづくり 1年(生活9時 図工4)											
	夏の野菜づくり 2年(生活8)				冬の野菜づくり 2年(生活8)							
		プランターで野菜づくり 2年(生活13)										
		豆の発芽と生長 5年(理科13)										
米づくり	米作り体験 5年(総合12)											

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
花の栽培	ひとり1鉢 1年(生活10)										
	ホウセンカ&オクラの栽培 3年(理科8)										
調理と 食品加工	ジャムづくり 3年(総合2)			大豆博士になろう 3年(総合12)							
							食事の工夫 6年(家庭12)				
植物の 季節変化	季節見つけ 1年&2年(生活23)										
	私の木 4年(理科4時間 図工6)										
廃材の利用	野焼き 6年(図工2・社会2)			枯れ枝で造形 6年(図工6)							
昆虫・動物	昆虫を育てよう 3年(理科16)			生命のつながり 5年(理科12)			生物と地球環境 6年(理科6)				
	ウサギとインコの飼育 4年生										
地域の 景観づくり	芦原駅にコスモスの散歩道を 6年(総合6)			コスモス迷路 6年		コスモス種取り 6年					
	町の秘密を見つけよう 3年(総合10)			芦原駅で菜の花栽培 5年(総合3)							
防災学習	くらしを守る 4年(社会19)		台風と天気 5年(理科2)			流れる水の働き 5年(理科15)					
	地震のメカニズムと避難 5年(総合8)										
被災地支援	東日本大震災の被災地支援プロジェクト「コスモスの絆」 6年(総合23)							フィリピン被災地支援 全校			
くらし	水とくらし 4年(社会17)				ごみの処理と利用 4年(社会14)						
地球 温暖化防止	ツルレイシで緑のカーテンづくり 4年(理科6)					私たちの生活と自然環境 5年(理科16)					
	天気と気温 4年(理科6)										
国際交流	世界の国々と日本 5年(総合12)					外国人を招く5~6年(総合2)					
世界平和	世界の平和 6年(社会6)										

(2) 植物の多様性を知る活動



樹木マップの活用



様々な野菜作り

(3) 人々の多様性を知る活動



外国人を招いて国際交流



ゲストティーチャーから踊りを学ぶ

(4) 地域や社会の多様性を知る活動



芦原駅をコスモスの散歩道にしよう



東日本大震災の被災地を応援しよう

(5) 地球規模の環境変化を踏まえた防災教育



発電の原理を知るための実験講座



学校と地域住民と合同で行う防災訓練

Type of materials to be used (使用する教材)

「この木なんの木」樹木図鑑	芦原小学校制作	平成 25 年 7 月改定 (WEB 版)
「ふるさとミニ百科 あしはら」	芦原小学校編	平成 4 年 1 月改定
「写真記録 東日本大震災」	毎日新聞社	平成 24 年 3 月発行
「地球温暖化をふせごう」	豊橋市環境部	平成 25 年 3 月発行

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

- ・児童の様々な取り組みの成果を観察記録やまとめのノート、発表から把握する。
- ・植物、人間、地域社会の多様性の把握については、日常の言動の深まりや取り組みの意欲から把握する。
- ・環境保全や防災教育に関しては、地域住民の関わりの度合いも評価に含める。

上記の評価と共に、年間 3 回の保護者アンケートをもとに、学校評議員会において ESD 活動の有効性を検証し、改善していく。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

4/Feb/2014

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職) P r i n c i p a l

Institution's name (学校名)

Ashihara Elementary School